阿井小学校の教育環境
持続可能性についての確認

～現状（存続）と未来（再編）を比較する～

R3.10.7（木）保護者勉強会
阿井地区校区別協議会　保護者代表分科会
第１グループ

第１グループで検討した課題

➡存続した側からの視点（～10年後）

・阿井小学校の児童数及び教職員数推移
・複式学級とは？メリットとデメリット

➡統合した側からの視点

・バス通学について
・児童数とバス車両の問題
・通学に関わる問題点

阿井小学校の児童数及び教員数推移（資料）

阿井小		R3		R4		R5		R6		R7（統合予定年）		R8		R9		R10		R11		R12	
1年	男	5	7	9	10 ※2	4	7	3	8	4	8	4	9	2	3	7	7	6	6	5	5
	女	2		1		3		5		4		5		1							
2年	男	8	12	5	7	9	10	4	7	3	8	4	8	4	9	2	3	7	7	6	6
	女	4		2		1		3		5		4		5		1					
3年	男	4	6	8	12	5	7	9	10	4	7	3	15 ※1	4	16 ※1	4	9	2	12 ※1	7	10 ※1
	女	2		4		2		1		3		5		4		5		1			
4年	男	7	14	4	6	8	12	5	7	9	10	4		3		4	8	4		2	
	女	7		2		4		2		1		3		5		4		5		1	
5年	男	7	13	7	14	4	6	8	12	5	7	9	10	4	7	3	15 ※1	4	16 ※1	4	9
	女	6		7		2		4		2		1		3		5		4		5	
6年	男	2	9	7	13	7	14	4	6	8	12	5	7	9	10	4		3		4	8
	女	7		6		7		2		4		2		1		3		5		4	
児童数		61		62		56		50		52		49		45		42		41		38	
学級数（特別支援学級）		6＋(1)		6＋(1)		6＋(1)		6		6		5		5		5		4		5	
教員定数(校長、教頭含む)		9		9		9		8		8		7		7		7		6		7	
事務職員		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	
養護教諭		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	
合計 ※3		11		11		11		10		10		9		9		9		8		9	
町配置		校務技師、学びのサポーター、特別支援員(学校の状況に応じて配置)																			
保護者数		39		41		38		35		38		36		31 ※4		30(推定)		27(推定)		24(推定)	

阿井小学校の児童数及び教員数推移（資料）

阿井小		R3		R4		R5		R6		R7（統合予定年）		R8		R9		R10		R11		R12	
1年	男	5	7	9	10 ※2	4	7	3	8	4	8	4	9	2	3	7	7	6	6	5	5
	女	2		1		3		5		4		5		1							
2年	男	8	12	5	7	9	10	4	7	3	8	4	8	4	9	2	3	7	7	6	6
	女	4		2		1		3		5		4		5		1					
3年	男	4	6	8	12	5	7	9	10	4	7	3	15 ※1	4	16 ※1	4	9	2	12 ※1	7	10 ※1
	女	2		4		2		1		3		5		4		5		1			
4年	男	7	14	4	6	8	12	5	7	9	10	4		3		4	8	4		2	
	女	7		2		4		2		1		3		5		4		5		1	
5年	男	7	13	7	14	4	6	8	12	5	7	9	10	4	7	3	15 ※1	4	16 ※1	4	9
	女	6		7		2		4		2		1		3		5		4		5	
6年	男	2	9	7	13	7	14	4	6	8	12	5	7	9	10	4		3		4	8
	女	7		6		7		2		4		2		1		3		5		4	
児童数		61		62		56		50		52		49		45		42		41		38	
学級数（特別支援学級）		6＋(1)		6＋(1)		6＋(1)		6		6		5		5		5		4		5	
教員定数(校長、教頭含む)		9		9		9		8		8		7		7		7		6		7	
事務職員		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	
養護教諭		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	
合計 ※3		11		11		11		10		10		9		9		9		8		9	
町配置		校務技師、学びのサポーター、特別支援員(学校の状																			
保護者数		39		41		38		35		38		36		31 ※4		30(推定)		27(推定)		24(推定)	

男女バランスに偏りが出る年がある

R８年以降複式学級（わたり指導）となる学年がある。

令和７年以降教員数が10名程度

保護者数の減少。PTAの負担の増加

奥出雲町立小学校再編方針（H31.3）に記載されている再編のメリット（一部抜粋）

- **再編しなかった場合のメリット**
  - ・個人の指導が徹底される。
  - ・複式学級ならではのよさもある。
  - ・一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
  - ・教師が複数の学年を行き来する間、児童生徒が相互に学びあう活動が充実（わたり指導）

- **再編した場合のメリット**
  - ・教員、子どもの負担軽減
  - ・人数が増えることによる学習経験の多様化
  - ・充実した学習指導が期待できる
  - ・多様な意見・討論による志向の拡大　　他

阿井地区校区別協議会保護者分科会 ブレインストーミングより（資料より一部抜粋）

- **再編した場合のメリット**

【児童・教育】
- ・友だちが増え、競争心が芽生える。刺激が増えたり協調性が学べる。
- ・スポーツなど活動の場が広がる。

【地域】
- ・各地区の文化に触れられる

【建物・施設】
- ・新校舎で学べる。

【保護者】
- ・負担の軽減（PTA活動など）

【教職員、財政等】
- ・教師の負担軽減。複式学級の解消
- ・６校→１校による町の財政負担の軽減。

- **再編した場合のデメリット**

【児童・教育】
- ・いじめなどの問題が見えにくい。個人の活躍が減る。茶摘みや田植え和牛学習がなくなる。

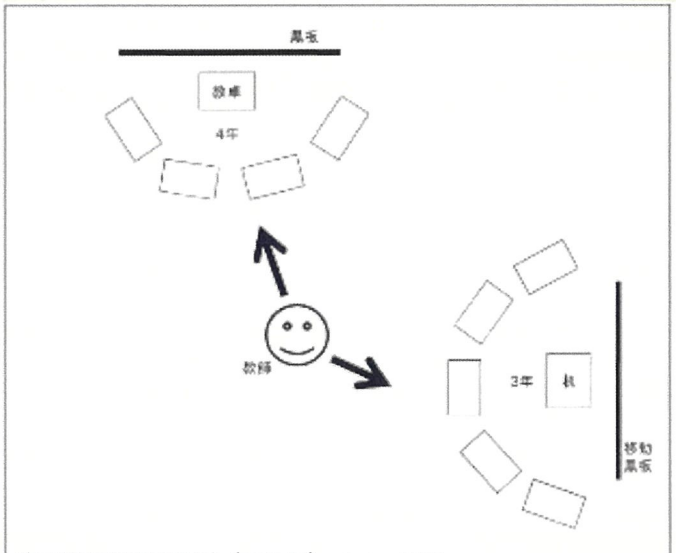
【地域】
- ・郷土愛が薄くなるのでは？行事が減る。UIターンがへり、過疎化も進む？

【建物・施設】
- ・通学に時間がかかる。狭い（体育館など）。旧校舎の管理

【保護者】
- ・学校、教職員との関りが減る。バス停までの送迎負担

【教職員、財政等】
- ・クラスが増え、職員の負担増。教員の特色が生かせない？

複式学級について



複式学級学年別指導（わたり）イメージ図

※複式学級指導の手引き（島根県教育委員会）より

複式学級のよさ、課題について

～「複式学級指導の手引き」島根県教育委員会より抜粋～

①複式学級のよさ

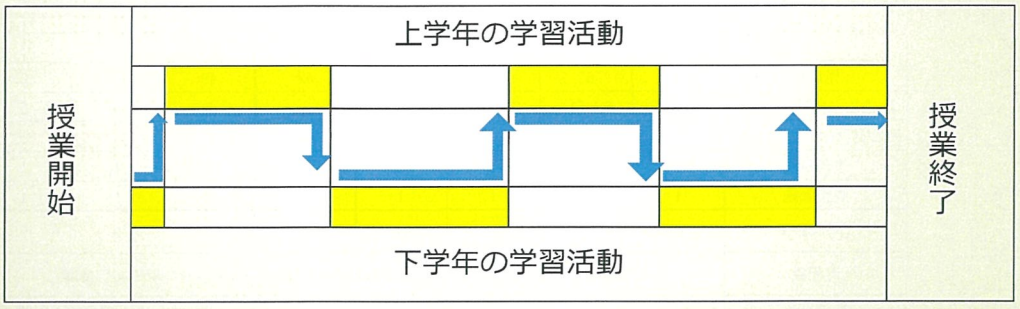
・異年同士の協力的な態度を養いやすい。
・一人ひとりの存在感や役割を持たせやすく、リーダー性を育てやすい
・自分たちで学習を進めていく場面が多く、自主的、協力的な学習態度を育てやすい。
・一人ひとりの児童に目が行き届き、丁寧に指導することができる。
・児童同士や、児童と教師の関りが濃く、温かい雰囲気が形成されやすい。

②複式学級指導上の課題

・該当学年の発達段階にそぐわない内容を学習する場合がある。
・直接指導を行う時間が短くなる場合が多い。
・下学年児童の依頼心が強くなる傾向があり、学級になじむまでは配慮が必要。
・同調的な発言が多くなり、多面的、発展的な考え方を育てる配慮を必要とする場合がある。
・実験や作業など、一人当たりの負担が大きくなりやすい。

わたり指導とは？

- 複式学級の学習指導において、一人の教師が二つの学年の学習を成立させるために、両方の学年を交互に移動して指導を行う動き。
- 教師がいない間は、子どもたちだけで学習を進める時間がある。



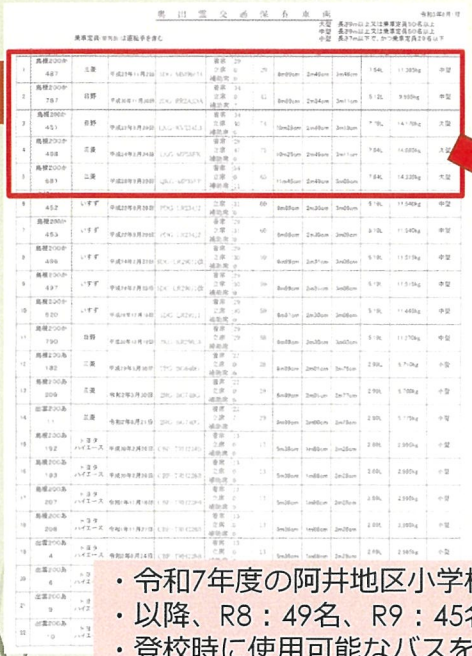
・・・教師の動き

統合した側からの視点
～バス通学について～

児童数とバス車両の問題

2年	男	8	12	5	7	9	10	4	7	3	8	4	8	4	9	2	3	7	7	6	6
	女	4		2		1		3		5		4		5		1					
3年	男	4	6	8	12	5	7	9	10	4	7	3	15 ※1	4	16 ※1	4	9	2	12 ※1	7	10 ※1
	女	2		4		2		1		3		5		4		5		1			
4年	男	7	14	4	6	8	12	5	7	9	10	4		3		4	8	4		2	
	女	7		2		4		2		1		3		5		4		5		1	
5年	男	7	13	7	14	4	6	8	12	5	7	9	10	4	7	3	15 ※1	4	16 ※1	4	9
	女	6		7		2		4		2		1		3		5		4		5	
6年	男	2	9	7	13	7	14	4	6	8	12	5	7	9	10	4		3		4	8
	女	7		6		7		2		4		2		1		3		5		4	
児童数		61		62		56		50		52		49		45		42		41		38	
学級数 （特別支援学級）		6＋(1)		6＋(1)		6＋(1)		6		6		5		5		5		4		5	
教員定数(校長、教頭含む)		9		9		9		8		8		7		7		7		6		7	
事務職員		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	
養護教諭		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	
合計 ※3		11		11		11		10		10		9		9		9		8		9	
町配置		校務技師、学びのサポーター、特別支援員(学校の状況に応じて配置)																			
保護者数		39		41		38		35		38		36		31 ※4		30(推定)		27(推定)		24(推定)	

教員定数: 学級数を基礎とした配置数
小学校3学級の学校で、児童数が15人未満の場合は1名減ずる。



乗車定員(着席数)は運転手を含む　　小型　長さ7m以下で、かつ乗車定員29名以下

	登録番号	車名	初度登録年月	形式	乗車定員(乗務員)		長さ	幅	高さ	総排気量	車両総重量	型
1	島根200か 487	三菱	平成23年11月2日	SDG-MM96FH	29	着席 :29 立席 :0 補助席 :0	8m99cm	2m49cm	3m48cm	7.54L	11.385kg	中型
2	島根200か 787	日野	平成30年11月30日	2DG-RR2AJDA	41	着席 :34 立席 :0 補助席 :7	8m99cm	2m34cm	3m11cm	5.12L	9.995kg	中型
3	島根200か 451	日野	平成22年9月29日	LKG-KV234L3	74	着席 :34 立席 :40 補助席 :0	10m28cm	2m49cm	3m19cm	7.79L	14.170kg	大型
4	島根200か 498	三菱	平成24年2月24日	LKG-MP35FK	75	着席 :28 立席 :47 補助席 :0	10m25cm	2m49cm	3m11cm	7.54L	14.085kg	大型
5	島根200か 681	三菱	平成28年9月29日	QKG-MP35FP	65	着席 :54 立席 :0 補助席 :11	11m45cm	2m49cm	3m09cm	7.64L	14.335kg	大型
6	島根200か 452	いすず	平成22年9月29日	PDG-LR234J2	60	着席 :29 立席 :31 補助席 :0	8m99cm	2m30cm	3m09cm	5.19L	11.540kg	中型
7	島根200か 453	いすず	平成22年9月29日	PDG-LR234J2	60	着席 :29 立席 :31 補助席 :0	8m99cm	2m30cm	3m09cm	5.19L	11.540kg	中型
8	島根200か 496	いすず	平成24年2月23日	SDG-LR290J1改	59	着席 :29 立席 :30 補助席 :0	8m99cm	2m31cm	3m08cm	5.19L	11.515kg	中型
9	島根200か 497	いすず	平成24年2月23日	SDG-LR290J1改	59	着席 :29 立席 :30 補助席 :0	8m99cm	2m31cm	3m08cm	5.19L	11.515kg	中型
10	島根200か 520	いすず	平成24年12月18日	SDG-LR290J1	59	着席 :29 立席 :30 補助席 :0	8m97cm	2m30cm	3m08cm	5.19L	11.445kg	中型
11	島根200か 790	日野	平成30年12月19日	2KG-KR290J3	58	着席 :29 立席 :29 補助席	8m99cm	2m30cm	3m03cm	5.19L	11.270kg	中型

・令和7年度の阿井地区小学校からの通学予定者は約52名。
・以降、R8：49名、R9：45名、R10：42名とR11年度までは40名以上を予定。
・登校時に使用可能なバスを奥出雲交通保有車両にて確認（R3.8時点）すると、９台が該当するが、そのうち全員が着席可能なバスは一台のみ。
　※布勢49、亀嵩46、八川38、馬木31（R7年度、30名以上のバス通学予定地区）
・小学生便には着席優先順位の高い高齢者等の一般の乗客も利用されるため、立ち席の児童もいる可能性がある。

統合小学校への通学手段にかかる町の考え方と登下校に関する問題点（一部抜粋）

町の考え方

・奥出雲交通の路線を基本とする
・徒歩通学圏を３㎞以内とする
・バス停から家庭まで３㎞以内、バス停までの移動支援は行わない
・バス停まで３㎞以上にの場合、補助金支援やタクシー、自治会輸送などを含めた支援を検討する
・サポート期間は初年度、一学期の間のみ

登下校に関する問題点

- バスの乗車定員はクリアしているが座席が少ない
- 安全性を考慮すると当面は２便必要
- バス停から３㎞以上のところがある（福原）
- 安全確保、人数把握などのため、バス停を絞り、ある程度集団化（通学班）する必要があるのでは？
- 学童に行かない児童は公民館あたりから徒歩帰宅となる
- 下校時の乗降場所の安全確保

まとめ（第1グループ）

- 小学校が『継続』または『統合』した場合、それぞれの視点から検証を行った。
- 継続した場合、Ｒ８年以降より複式学級となる学年がある。
- 再編する・しないのいずれにしてもメリット・デメリットはある。その中で、思いや感情だけでなく客観的データについても検証が必要。
- 教員の思いとしては、複式学級・単式学級それぞれの良さと課題があり、いずれの学級編成であってもそれぞれの良さを生かした最善の教育を提供したいと考えている。
- 通学に関して、統合した場合に予想される児童数の対応車両は現状では一台しかなく、増便などの工夫が必要と思われる。
- 通学手段や登下校に関する問題点には、町と地域では考え方に差があり、適宜質問や意見、提案を行っていく必要がある。